

事例番号 023 ニテコの清水でまち再生(秋田県美郷町(旧六郷町))

1. 背景

美郷町は秋田県南東部の仙北平野に位置する人口約2万4千人(2006年)のまちである(人口は1980年26,356人、2005年23,815人と減少傾向)。2004年11月に千畑町、六郷町、仙南村(北からの順)の2町1村が合併して誕生した。本稿で紹介する事例は旧六郷町に関するものであるが、同町は現在の美郷町の中央に位置する人口約7,300人のまちであった。市街地は東西方向の羽州街道と南北方向の角館街道に沿って形成され、江戸時代は宿場町であった。また、宗教都市として30数カ寺を擁していた。現在でも26の寺がある。

旧六郷町は、隣接する西の大曲市の中心部までは9km、南の横手市の中心部までは15kmの距離にあり、両市の影響を受けやすい地理的環境にある。そのためモータリゼーションの進展や両市における大型店の進出の影響を大きく受けてきたが、さらに最近では環状道路の完成後に郊外部への大型店の立地が相次ぎ、中心部の地元商店では売上高が減少するなど中心市街地の空洞化が顕著になってきた。

一方、旧六郷町には奥羽山脈を水源とする地下水が湧き出る湧泉がまちなかに大小およそ60ヶ所もあり、まちの大きな魅力となっている。1985年に環境庁(当時)の「全国名水百選」に選ばれ、また、1995年に国土庁(同)の「水の郷100選」に選ばれている。旧六郷町ではこの地域資源に着目し、清水を活用したまち再生に取り組み始めた。



美郷町の位置 (資料:美郷町)

2. 目標

1998年に策定された六郷町中心市街地活性化基本計画(『清水を活かした魅力ある中心市街地の再構築に向けて「六郷清水のまちづくり計画」』)は、計画のコンセプトを「名水を愛し守る六郷のまちづくり」とし、テーマを「6億年の名水のまち」とした。そして以下の基本方針を掲げた。

① 各種事業の一体的推進

市街地の整備改善と商業の活性化、並びに観光振興に関する各種事業を一体的に推進していく。

② 町による主体的な取り組み

地域に最も身近な行政主体である町役場が中心となって、地域住民や地元企業などの積極的な協力を得ながら、基本計画の作成及びこれに基づく事業の推進を行う。

③ 地域住民の理解と協力の確立

町役場の行政担当部局間の連携のみならず、必要に応じ地域住民や地元企業の連携を推進するための体制づくりが重要である。

④ 観光振興と商業振興との連携

商工関係者と観光関係者などが連携して、中心市街地活性化を推進することが重要である。

⑤ 清水を活かした魅力の創造

清水を守るために、ハード面では透水性舗装や石畳などの環境に配慮したまちづくりを行い、あわせてソフト面でも清水を活かしたイベントなどを展開していく。

⑥ 民間活力の活用

中心市街地の活性化のためには、民間資金の流入や民間事業者の進出等民間投資を促進する必要がある。行政主体は、民間活動の前提となる条件や基盤の整備を積極的に行うとともに、民間事業者との緊密な連携確保に努めることが重要である。

⑦ 広域的連携の推進

交通手段の発達等により、実際の都市圏や商圏は市町村の区域を越えて大きな広がりを見せている。このため、六郷町の基本計画においても、町を超えた広域的観点から計画を策定し、広域的な連携を確保していく。

⑧ 居住環境の整備

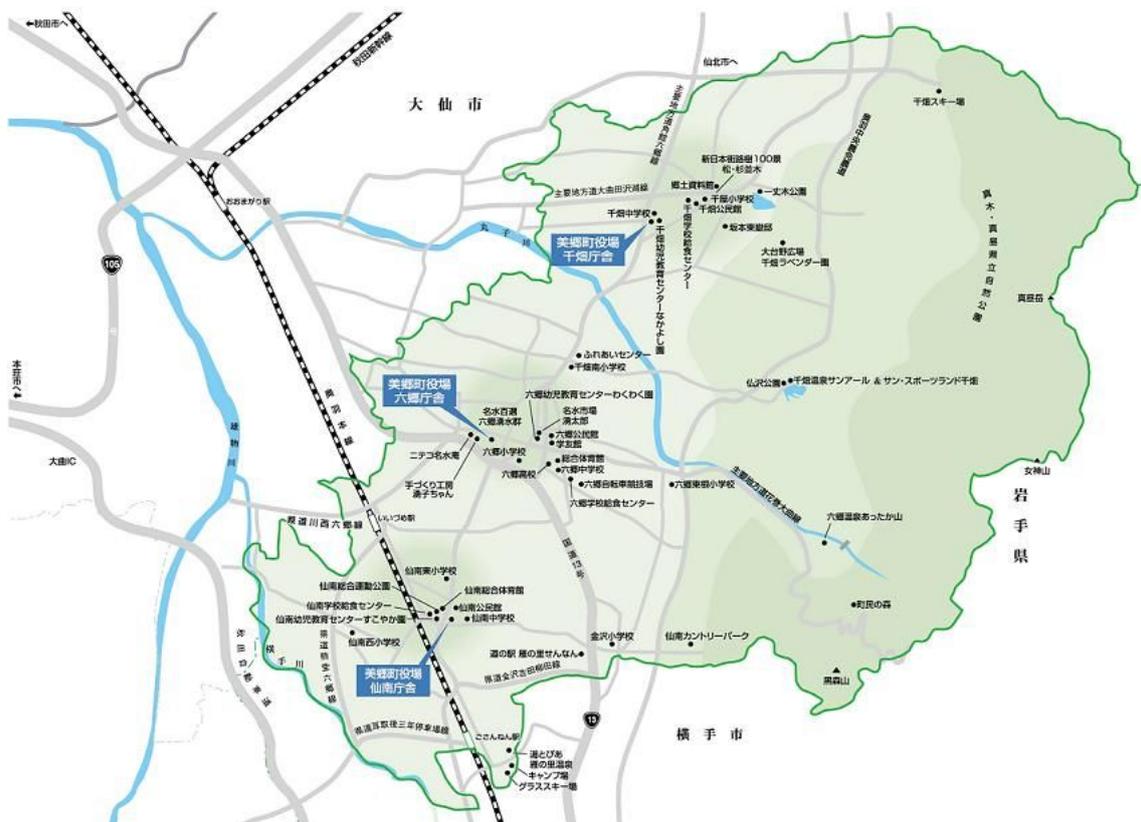
良好な住環境の整備を行い、高齢者へのサービスの提供などを行っていく。

六郷町の地域資源である清水を活用することによってまちの魅力を高め、観光を振興するとともに住みやすいまちをつくるのが基本的な目標となっている。

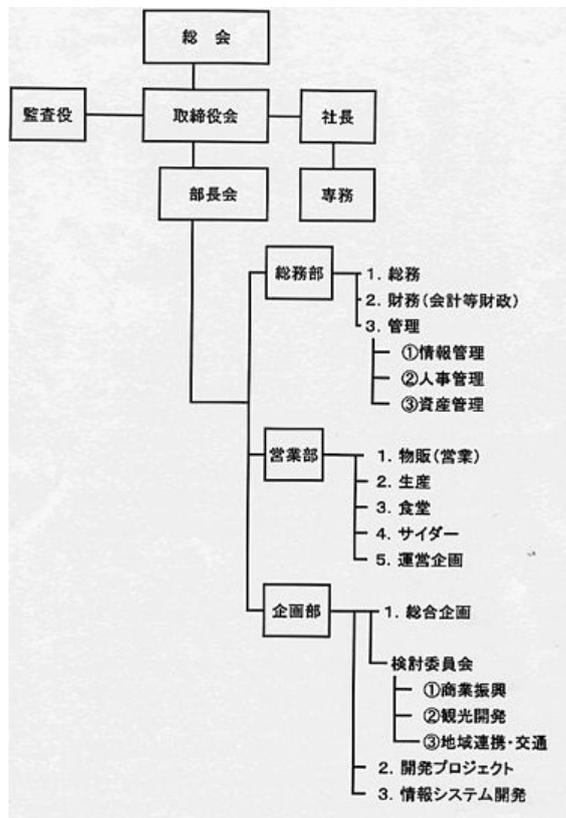
(注)「ニテコ」:アイヌ語の「ニタイコツ(森林の水溜り)」が転化した言葉と言われる(アイヌ語で「ニタイ」=森林、「コツ」=水溜り)。

3. 取り組みの体制

1999年に設立されたTMO「六郷まちづくり株式会社」がまちづくりの中心組織である。同社は六郷町、商業者、企業、町民が出資しており(資本金5,000万円、うち六郷町が2,500万円を、68組織及び個人が2,500万円を出資)、出資者が社員となってまちづくりの各種事業を行っている。この「六郷まちづくり株式会社」と旧六郷町、住民等との協働によりまちづくりが進められた。



美郷町の町域 (資料:美郷町)



六郷まちづくり株式会社の組織 (資料:同社ホームページ)



六郷の観光マップ（資料：秋田県六郷観光情報センター）

4. 具体策

中心市街地活性化基本計画では、事業の基本的な考え方を次のように述べている。

現在はバラバラになっている湧水群と商店街を散策道路(回遊ルート)によってつなげネットワーク化をはかる。ゆったりと散策できる回遊ルートとし、回遊ルートは水と光と音を活かした演出をする。また、商店街の空き店舗や空地进行を清水を活かしたイベント空間、駐車場などとして活用していくと同時に、歩行者環境の検討も進めていく。

同計画では、次のような具体的な戦略を掲げている。まず、集客力のある拠点を2つ整備する。ひとつは「ニテコ清水」(拠点1)であり、もうひとつは「酒造周辺」(拠点2)である。これらは回遊ルートの両端に位置する。前者は「訪れる人たちの観光拠点」であり、地場産業と結び付いた飲食等を提供する休憩施設等を整備する。後者は「町の人たちの産業文化拠点」であり、商店街のシンボルとなるような施設を整備する。それは、観光拠点でもあり、町の産業活性化拠点、町民の生活拠点(コミュニティの場)でもある。次いで、これらの拠点を結ぶルートを「メイン回遊ルート」として整備

する。そのルートの名称は「ユウちゃんロード」である。さらに、「サブ回遊ルート」として2つのルートを整備する。これらは「寺町ロード」及び「かけ唄ロード」である。前者は「六郷町の歴史や伝統を表象する寺町群を通るルート」であり、後者は「郷土芸能のかけ唄を六郷町の文化として捉え、それらを演出するルート」である。

このような基本的戦略に基づき、美郷町と六郷まちづくり株式会社が以下の活動を行っている。



ニテコ名水庵と湧太郎を結ぶ「ゆうちゃんロード」(資料:秋田県六郷観光情報センター)

(1) 「ニテコ名水庵」の整備(拠点1)

清水群の中でも最も著名な「ニテコ清水」のすぐ脇に、飲食・休息施設として「ニテコ名水庵」を2002年に整備した。公設民営型施設で、六郷町が農林水産庁の経営構造対策事業で整備し(事業費は7,100万円、延べ床面積は288㎡)、運営は六郷まちづくり株式会社が行っている。蔵造りの建物とニテコ清水を使った料理とが特徴で、料理は流しそうめん、鯉、豆腐といった清水に関連したメニューが売り物となっている。



拠点1のニテコ清水(左)とニテコ清水脇の「ニテコ名水庵」(写真提供:美郷町)

(2) 「湧太郎」の整備(拠点 2)

名水市場「湧太郎」は酒造店の蔵を改造した建物で、2002年に開業した。六郷まちづくり株式会社がリノベーション補助金を得て整備し(事業費は4億5,100万円、延べ床面積は1,700㎡)、運営も同社が行っている。施設内容は、ホール(国之誉ホール(酒造店名から命名))、レストラン、喫茶店、おみやげ屋、学習施設水文館(ミュージアム)、朝市広場、カラオケルーム、パソコンスクールであり、地元の人達の交流と学習の場にもなっている。国之誉ホールのプログラムは、落語公演、地元高校生の書道展、ギター演奏など、ジャンルは多彩で、六郷町内外から集客している。

(3) 回遊ルートの整備

中心市街地活性化基本計画に基づく2拠点の整備が終わったことから、次にそれらを結ぶ回遊ルートの整備が行われている。これは2002年度以降、国土交通省の街なみ環境整備事業として実施されており、具体的には「ユウちゃんロード」、「寺町ロード」、「かけ唄ロード」の道路の美装化、水路の創造、案内標識の統一、ポケットパークの整備等が行われている。

(4) 「湧子ちゃん」の整備

地元産の野菜や漬物などの手作り食品加工工房と加工品の販売所とが一体になった施設として、手づくり工房「湧子ちゃん」が2003年に拠点1の地区に整備された。六郷町が農林水産庁の経営構造対策事業として整備し(事業費は2億500万円、延べ床面積は486㎡)、運営は六郷まちづくり株式会社が行っている。安全と地産地消をモットーに六郷町の主婦が運営に参加している。地元産大豆を原料とした豆腐、おからドーナツ、あきたこまちを原料としたジェラードが売り物である。また、湧水を原料としたサイダー「ニテコサイダー」を製造販売している(1本130円、地方発送あり)。2003年下半期の販売数は14万本であった。



拠点2の名水市場「湧太郎」と清水が原料のニテコサイダー (写真提供:美郷町)

(5) 「ユウちゃん」の発行

六郷まちづくり株式会社は、地域通貨「ユウちゃん」を発行している。これは、通帳、クーポン券、間伐材コインの3方式で流通が可能なものとなっている。通帳残高が6ヶ月に1回10%減額されるのが特徴で、その金は事務局費用、湧水の保全、福祉に用いられる。



地域通貨ユウちゃん (写真:美郷町ホームページ)

(6) イベント等の開催

六郷まちづくり株式会社は、以上の他、講演会、会議、コンサート、演劇等のイベントの企画、まち歩きマップの作成、町のイメージソングの制作など、多彩な事業展開を図っている。

5. 特徴的手法

地域の貴重な資源である清水に着目し、これを最大限生かすために点から線へ、線から面へとまちづくりの活動の幅を広げている点が特徴的である。また、観光を主眼とした拠点と町の人々の集いを主眼とした拠点を組み合わせ、内外の交流を促進している点も特徴的である。

TMO の設立とその活動に関しては、広く住民の参加を得ている点が特徴的であり、また、出資者が社員となって事業を行っている点も特徴的である。同社は清水を通じて食の安全と地産地消とを図ることを生活と観光振興のコンセプトに据えたり、地域通貨やイベントなどのソフト事業も展開するなど、幅広い活動を行っている。

ニテコ名水庵のオープン時には3万人、湧太郎のオープン時には1万人の集客があった。町全体への観光客は50万人で、これらの施設整備前に比べて数倍になっているという。

6. 課題

2つの拠点を結ぶ回遊ルートにおいて道路改良、水路整備、広場整備、案内標識の統一等が進められているが、そのルートにある商店街の魅力づくりに力を入れることによって中心商店街の利用者数を増やすことが課題となっている。

(参考・引用文献)

美郷町ホームページ

六郷まちづくり株式会社ホームページ

秋田県六郷町企画課『賑わい復活をかけ名水市場湧太郎と手づくり工房湧子ちゃん・ニテコ名水庵』東北21・2004年3月号、東北経済局

中国経済産業局ホームページ

経済産業省東北経済産業局ホームページ